

令和元年10月29日（火）

# 富山県富山市



市章

## ■市の概要

- 面積：1242km<sup>2</sup>
- 人口：417,227人
- 世帯数：176,768世帯
- 令和元年度一般会計予算：1,642億4000万円

富山市は、富山県の県庁所在地であり、同県の中央部から南東部に位置する。平成17年4月1日、旧富山市、上新川郡大沢野町、大山町、婦負郡八尾町、婦中町、山田村、細入村の7市町村による新設合併によって現在の富山市が発足した。合併により富山県内のうち約3割の面積を占める市となった。可住地面積比率は約40%で、市域の約60%が林野地である。市の北部から中部には富山平野があり、その北部には豊富な魚介類が生息する富山湾が広がる。また、中西部には呉羽丘陵、南部には飛騨高地が広がり、豊かな自然に囲まれた市である。

## ■視察内容「トヤマトレッキングサイトの取組について」

- ・富山市が運営事業者と協定を締結し、体育施設の「内から外へ」というこれまでの体育館には無い新しいコンセプトのもと、サービスを展開する。
- ・トレッキングサイト内に入る店舗は、運営事業者が選定することとしている。
- ・各店舗の売り上げは各店舗の収益とし、運営事業者は各店舗から経費を収入として徴収する独立採算による仕組みとしており、市から運営や営業に関する補助は行っていない。
- ・委託に際し、市の行政目的である「健康寿命の延伸」・「生活の質の向上」につなげることを求めている。

### 1 経緯

- ・平成17年の市町村合併により、体育施設や市民センターなどの類似公共施設が多く市内に存在することになった。
- ・そんななか、市の総人口は年々減少し、生産年齢も併せて減少しており、その傾向は今後数十年変わらないと見られている。
- ・市民の高齢化が進み（総人口の28.3%）、医療・介護などの社会保障費が増大。
- ・類似公共施設を多く抱える市として、今後40年間で約3,300億円、年平均82.5億円の施設更新費用が不足することが予測される。

- ・施設を適切に管理活用するという「公共施設のマネジメント」が、大きな行政課題の1つとなる。
- ・平均寿命が高齢化する反面、健康寿命はなかなか伸びず、この2つに乖離が生じる。
- ・健康寿命の延伸のため、市として「歩く」ライフスタイルの推進を検討する
- ・運動習慣のない市民が、将来敵に歩行困難になるという科学的データのもと、車移動中心の日常生活から、公共交通の充実など、日常的に歩く生活をまちの将来像とする。

## 2 トヤマトレッキングサイト事業とは

2016年度に総務省が行った「公共施設オープンリノベーション・マッチングコンペティション」のひとつ。

低未利用の公共施設やスペースをリノベーションにより活性化させる目的で行われた事業だ。TTSは、総務省が富山市と委託契約を結び、市が民間事業者の乃村工藝社に再委託して事業化。「閉じた体育館から、外につながる体育館」をテーマとして、富山市総合体育館のデッドスペースをリノベーションして生み出された。



## 3 トヤマトレッキングサイトの特徴

- ・行政課題である「公共施設のマネジメント」と「健康寿命の延伸」を解決するため、デッドスペースとなっている公共施設の一部をリノベーションし、健康増進事業に活用するという手法を用いた
- ・コンパクトシティという富山市の強みを生かし、富山市内の街中をトレッキングフィールドと捉えて、歩くことでまちの魅力を味わうことができる＝タウントレッキング
- ・環水公園が目前に広がる好ロケーションであることを生かし、駅から体育館を通して環水公園に抜けられるよう、新たにトレッキングサイト内に出口を新設し、新しい導線を作った。

- ・「健康寿命の延伸」という行政目的を果たすため、目的達成につながる取り組みについて、事業者に対して委託している。

例→カフェの活用（タニタ食堂や地元食材により、集客を図る）

運動指導・健康管理（タニタの運動管理などで、顧客満足度を向上させる）

広報によるターゲットへの周知（ターゲットを絞った周知で利用者増を図る）

運営活性化業務（交流拠点や情報発信拠点となるよう企画運営を行う）

#### 4 総事業費

- ・オープンまでの総事業費は1億円。

##### 【内訳】

- ・施設整備費→6000万

※総務省のオープン・リノベーション推進事業の委託金3000万円・

富山市負担3000万円

- ・ソフト事業費→4000万

※内閣府の地方創生推進交付金2000万円・富山市負担2000万円の計4000万円

#### 5 利用実績

年度	29年度	30年度
会員数	113名	116人
来店者数	12,934人	17,710人
イベント参加者数	985人	968人
体組成計利用者数	2,365人	1,932人

#### 6 利用者属性

##### (1) 年齢区分

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
0.8%	0.8%	12.1%	30.3%	30.3%	15.2%	9.1%	1.5%

##### (2) 男女比

男性：36名 27.3%

女性：96名 72.7%

#### 7 今後の課題

カフェ、スポーツショップ、交流スペースの利用者は、中高年が中心である。

今後は、忙しくてスポーツに取り組めない若い世代も入りやすい雰囲気作りや営業を目指す必要がある

## 8 所感

富山市の行う、オープンリノベーション推進事業を視察した。一般的な PPP の一つの課題は、指定管理料や委託料など、運営費まで行政が補助することにあるが、トヤマトレッキングサイトは、行政課題の解決を目的とすることを条件に、施設整備は行政が行い、その代わり、運営を独立採算で行う公設民営である点に特徴があった。



それぞれの自治体によって、抱える行政課題は異なると思うが、各自治体がオーダーメイドで官民の連携を進めていくことが、これからの自治体運営には求められていくものと感じた。そういった意味でも、富山市の取り組みは先進的であった。

このような事業を成功させるためには、各自治体が自分の強みをしっかりと分析し、かつ、その強みをどう行政課題の解決に生かせるのか、という分析が不可欠であると感じた。

## ■視察内容「富山市総合体育館の運営について」

- ・富山市総合体育館は、2000年の富山国体に向けて建て替えを行い、1999年に完成。
- ・バスケットボールプロリーグの富山グラウジーズのホームコートであることや、4面スクリーン、wi-fiを設置することで各種イベント利用を呼び込み、施設使用料や広告料収入の増加を図り、「稼ぐ施設」としての運用を目指している。

### 1 施設概要

名称：富山市総合体育館  
延床面積：28,681.97 m<sup>2</sup>  
建設費：9,855,825 千円  
用地費：5,920,091 千円



### 2 利用者数推移

年度	27年度	28年度	29年度
利用者数	461,394人	511,089人	511,361人
稼働率	—	67.6%	69.4%
使用量	78,862千円	91,411千円	93,829千円

### 3 維持管理費

平成29年度→212,904千円（指定管理委託料及び人件費補助含む）

### 4 富山市総合体育館の特徴

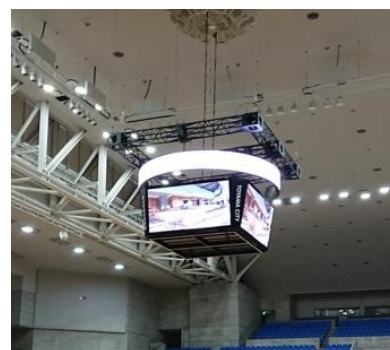
- ・4面スクリーンの設置により、施設の付加価値を高めることと同時に、多用途での施設利用の促進を図ることで、施設の自立性を向上させた。

元々が、環水公園に近接する恵まれた立地であることと、スポーツに限らず多様な用途に対応できる高い集客力を備えた施設であったことを踏まえての設置である。

◎設置費用→136,080千円

- ・フリーwi-fiを設置することにより、利用者やイベント時における来訪者の利便性を向上させ、併せて、緊急時における情報提供手段の確保などの防災機能を向上させた。

◎設置費用→4,336千円



### 5 今後の展開

令和2年度に、市有施設の長寿命化計画を策定予定。総合体育館の設備についても、更新計画に沿って改修・更新をしていく予定。

その過程で、現在は富山市体育協会が指定管理者として管理運営をしているが、Bリーググラウジーズのホームアリーナとしての利用や、全国規模のスポーツ大会、大規模イベントが開催されていることから、収益の向上が図れる施設として、施設の運営を民間事業化できないかどうか、検討していく。

## 6 所感

総合体育館として、充実した施設と機能を兼ね備えた施設であった。プロバスケットボールチームのホームコートとなっていることで、第1アリーナにおいて年間の多くの土日がBリーグの使用であり、市民利用ができないのではないか、という疑問についても、市民利用4面スクリーンや音響施設を導入した第1アリーナはイベント利用、稼げる施設の為のアリーナであり、市民利用は第2アリーナでも十分な施設である、ということがわかった。

もっとも、今年度は第1アリーナのスクリーン・音響設備・照明設備の更新が相次ぐなど、修繕管理の費用も多額であることから、ますます施設の民間事業化が求められるのではないか、と感じた。

多くの付帯施設を有し、多様な市民の運動ニーズに応えられる施設であった。

